岸から30m程のスラブ滝が入っている。たまには滝も登りたいので，この滝を直登してみる。沢幅がせまくなり水量も減ってきた。ミズナ，アイコなどの山菜をつみながら登る。11時40分沢が二分した。右沢はすぐ上でカレ沢となっているが，先はまだありそうである。左沢はすぐまた二つに分かれ，左側は30m程の滝となっている。3人がそれぞれの沢を少し登って偵察した結果，結局一番左の沢に入る。30mの滝を直登した萩原君の弁，「一番最後のところがちょっとしんどかった」。すぐ水もかれる。カモシカの足跡のいっぱいつついたけもの道をたどったら，しっかりした踏跡に出た。12時10分。　　（記・

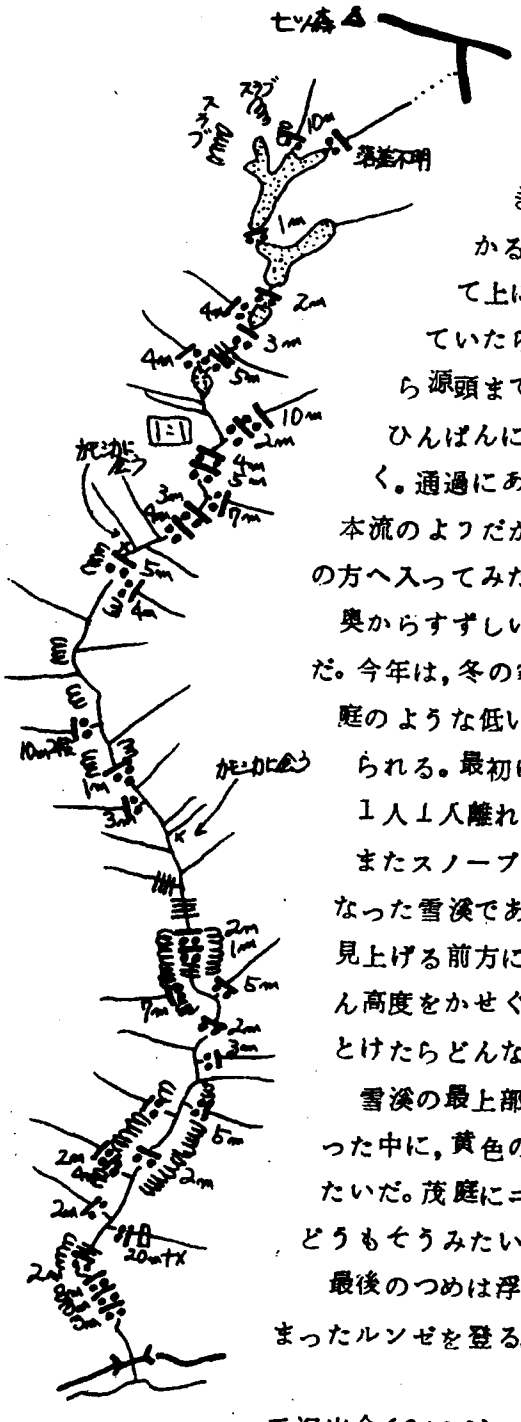
白根沢出合（7:50）——白根一ノ沢（仮称）出合（9:00）——白根二ノ沢（仮称）出合（9:20）——沢終了（12:00）——踏跡（12:10）

白根沢（作図：

手沢　1981年7月12日

L

島川林道起点から徒歩約1時間で手沢出合に着く。身仕度をして出発。出合から暗い廊下が続く。滝はたいしたものはかかっていないが，ちょっとした難所である。へつりで通過する。岩は花崗岩質でホールド豊富。フリクションもよくきく。続いて第2の廊下。小滝が2つかかるが，へつりで通過。この先は平凡な河原歩きとなる。イワナの姿を見る。なかなかの大物がいる。数も多そうだ。普通の釣人は下流の2つの廊下あたりで引き返していくせいだろう。ちょっとした淵みにいくつもの姿をみる。前方から犬のようなものがかけてきた。カモシカだ。しかもまだ子供のカモシカである。我々の目前でUタ



手沢（作図　　）

ーンして右手の支流に入りこんでいった。

平凡な河原歩きにいいかげんあきてきた頃，滝が出てきた。落差5m。本流にかかるはじめての本格的な滝である。右岸を登って上に出る。仲間2人が上がってくるのを待っていたらまたカモシカが出た。この沢には出合から源頭まで随所に足跡がついていた。通り道としてひんぱんに利用されているようだ。4～5mの滝が続く。通過にあまり困難はない。そして二俣。左俣の方が本流のようだが，右俣には10m程の滝があって，こっちの方へ入ってみたい誘惑にかられる。

奥からすずしい風が吹いてきた。どうも雪渓がありそうだ。今年は，冬の豪雪を反映してか，いくら沢筋とはいえ茂庭のような低い所で7月というのに雪渓があちこちでみられる。最初は今にもくずれ落ちそうなスノーブリッジ。1人1人離れて慎重に通過。5mの滝を直登した先にもまたスノーブリッジ。そしてその先は200m程の二俣になった雪渓である。そしてその先に更に1km程の雪渓。見上げる前方にスラブをつけた七ツ森。急傾斜でどんどん高度をかせぐ。この傾斜と周囲の岩質からして，雪がとけたらどんな滝が顔を見せるだろうか。

雪渓の最上部で一休み。すでに雪が消えて草々のしげった中に，黄色の花が咲き乱れている。ニッコウキスゲみたいだ。茂庭にニッコウキスゲなんて聞いたことないが，どうもそうみたいだ。

最後のつめは浮石と，雪崩で根こそぎにされた樹木のつまったルンゼを登る。15:05七ツ森北方の尾根上へ。

（記・

手沢出合（9:00）――二俣（12:20）――七ツ森北方尾根（15:05）